

## 屋久島・宮之浦岳の縦走登山（2008年10月30日～11月2日）

出張の時に飛行機から何度か見た屋久島の山はいつも雲に包まれていた。「月に35日雨が降る」と「浮雲」で書かれて有名になった屋久島の雨は、温かい海からの水蒸気をたっぷり含んだ風が屋久島にぶつかって、島の山岳地域で年に10000ミリ近く雨を降らせるようである。5月連休にKCで、「雨の少ない時期に屋久島に行くのは、いつ頃がいいですかねえー」と藤川さんに尋ねたところ、「11月頃がええんじゃないかのー」との回答であった。和田、笹川両氏とも屋久島の宮之浦岳には予めから興味を持っており、藤川さんの助言で11月に遠征することにした。

9月に入って、11月1日～3日の連休を絡めて4日間の日程を決めてから、格安航空券を探し始めた。しかし、我々が希望する日程と値段の航空券は既に満席で入手できず、結果的に2日の休暇を追加した今回の日程となった。初日の最終便で島に入り、最終日の始発便で島を離れ、中の二日間を宮之浦岳の縦走登山に当てることにした。格安を優先させた結果、羽田空港から屋久島空港の往復航空チケットに民宿1泊を付けて38400円であった。屋久島の山小屋は無料開放された避難小屋なので、満員で泊まれない場合を想定しテントを持参することにした。

メンバー：L青景平昌（写真・記録）、SL和田穰二、SL笹川雅史

日 程：10月30日 羽田空港—鹿児島空港—屋久島空港—民宿やくすぎ荘  
10月31日 淀川入口—淀川小屋—花之江河—黒味岳—宮之浦岳—新高塚小屋泊  
11月1日 新高塚小屋—縄文杉—ウイルソン株—大株歩道入口—楠川分れ—辻峠  
—白谷山荘—白谷雲水峡案内所—民宿やくすぎ荘  
11月2日 屋久島空港—鹿児島空港—羽田空港



## 10月30日（木）曇り

羽田空港14:35—16:20鹿児島空港17:00—17:35屋久島空港—民宿18:30

折角の遠征なのに予報では天気は下り坂。雨を覚悟で機上の人となった。羽田から鹿児島空港で乗り継いで、シルエットの島影を眺めながら夕暮れの屋久島空港に着陸した。曇ってはいるが雨はまだ来ていない。早速、タクシーで宮之浦の民宿に向うが、途中、ショップでガスボンベを購入する。東京でも運転手をやっていたという大柄のタクシー運転手は、息子さんがしこ名「屋久ノ島」として相撲で頑張っているとのこと。話が弾んだついでに、明朝の淀川入口までのタクシーも依頼することにする。民宿は、市街地の外れの宮之浦川に面した位置にあり、道路の向かいの農協のスーパーで、食料を買い足した。夕食は姿揚げやツキアゲなどの「トビウオ料理」尽くしであった。早出のため朝食弁当を依頼する。

雨の下山になりそうなので、最終日もこの民宿に宿泊することにした。

## 10月31日（金）曇り後雨

民宿5:00—5:50淀川入口6:10—7:00淀川小屋7:25—小花之江河8:40—花之江河8:50—9:20黒味岳往復10:20—栗生岳12:25—宮之浦岳(1936m)12:45—三叉路13:15—第2展望台14:40—第1展望台15:10—新高塚小屋15:35

4時になると出発準備の物音が始まり、これで目が覚めた。縄文杉詣は荒川登山口からの日帰りコースが一般的で、10時間程度を要す。民宿の最寄りのバス停から5時6分発の荒川登山口行きバスが出ており、これに合わせて出発する人が多い。我々は朝食弁当を済ませ、夜明け前の夜道を件のタクシーで安房を経由して淀川入口に向う。雨は降っていないが、運転手はしきりに「風向きが良くない。これは雨になりますよ」と気になることを言う。

屋久島の夜明けは東京よりも30分程度遅い。6時に淀川入口に着いたが真っ暗闇であった。先客の車が一台いたが、出発準備中にマイクロバスを含め3台ほど後続車が入ってきて急に賑やかになってきた。

ラッシュに巻き込まれては大変だと、リヒトの明かりを頼りに取り急ぎ出発する。屋久島では登山道を歩道と称しているが、明かりに照らし出される歩道には、木々の根が静動脈血管のように浮き出て張り付いて歩き難い。淀川小屋に着く頃にはすっかり明るくなってきたが、代わりに雨がしとしと落ち始めた。淀川小屋（写真-1）はきれいに掃除された状態で、宿泊者は誰もいなかった。本格的な雨に備えて雨具を着ける。写真-2は花之江河への根がむき出しの歩道である。



写真—1 淀川小屋



写真-2 根に覆われた歩道



写真-3 花之江河の湿地・池塘

トップに行く笹川さんの突然の奇声に驚いて、前を見ると小花之江河の湿地帯にヤクサルの一群がたむろしていた。慌てることなく移動する一群を見送って、さらに上部の花之江河（写真-3）に向う。ここではヤクシカが1頭悠々と草を食んでいた。花之江河は池塘が点在する標高1600m程度に位置する湿地帯で、幾つかの歩道が合流している。この辺りから白骨化したヤクスギの枯存木が目立ってきた（写真-4）。運転手の予想通り、本格的な雨となり展望は全く利かなくなったが、黒味岳へは予定通り分岐点に荷を置いて空身で往復する。巨岩上の標識で黒味岳の頂上を確認したが、花崗岩が露頭した頂上には我々以外には誰も居なかった（写真-5）。屋久島の花崗岩は風化した表面から小石が突起となって露出しているのが特徴でフリクションが良く効く。この表面に露出した小石は正長石の結晶で、屋久島

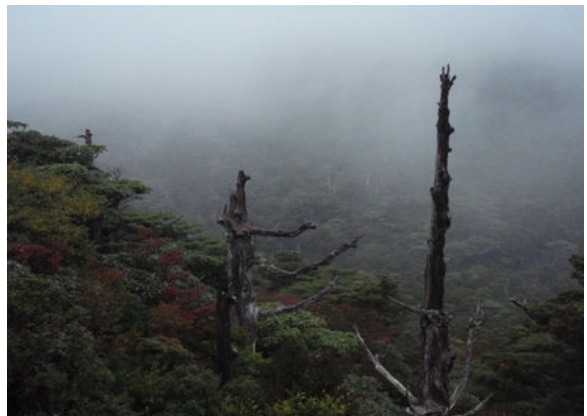


写真-4 白骨化した枯存木



写真-5 黒味岳の頂上



写真-6 屋久島の花崗岩

の花崗岩の特徴のようだ（写真－6）。

宮之浦岳に向けて高度を上げると、整備された木道の両側にササやシャクナゲが迫ってくる。木道でヤクシカに度々遭遇するが、慌てて逃げる様子はない。心底、人を信頼しているようである。

翁岳から宮之浦岳の広い尾根では、敷き詰めたササの中に露頭した岩塊がガスのなかで見てとれた（写真－7）。栗生岳の岩屋からササの中の木道を辿って大きな岩を回り込むと、そこが宮之浦岳の頂上で無人であった。風は強くないが本格的な降雨となっていた。記念の写真を撮って直ちに新高塚小屋に向けて出発する（写真－8）。

途中に第2および第1展望台があるが何も展望できなかった。森林帯の薄暗いなか急にヤクシカが増えてきたなどと思ったら、そこに新高塚小屋があった。真っ暗な小屋に入ってみると、すでに多くのパーティーが陣取っていた。暗闇に目が慣れてくると、奥のほうに3人分のスペースがありそうなので、急いでこれを確保した。雨の中でテントを張らずに済んだのは幸いであった。結果的には我々が最後の宿泊者となった。



写真－7 露頭した岩塊



写真－8 宮之浦岳の頂上

### 11月1日（土）晴れ後曇り

新高塚小屋5:50－高塚小屋7:05－縄文杉7:20－夫婦杉8:00－ウイルソン株8:50－翁杉9:10－大株歩道入口9:30－楠川別れ10:55－辻峠11:55－白谷山荘12:40－白谷雲水峡入口（バス停）13:

50

3時ごろ夜空を仰ぐと、昨日の雨が嘘のように満天の星空であった。今日は荒川登山口から縄文杉に向う大勢の登山者に逆行しながら下山することになるので、出来るだけ早く出発することにした。

リヒトを頼りに出発する。途中、6時40分頃に雲の間からご来光があった。高塚小屋は



写真－9 高塚小屋

ブロック積み小さな古い避難小屋で、小屋の周りには数張りのテントがあり、それぞれ出発の準備中であった（写真－9）。水場は10分程度下った縄文杉のところにあるとのこと。

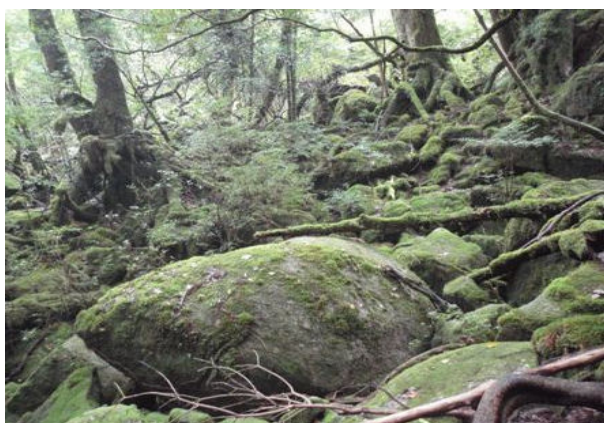
水場を求めて下ってゆくと、突然木製の大きなステージが現れ、それに上がると巨大な杉が鎮座していた。これが縄文杉であった（写真－10）。ステージには下から一方通行の階段があり、順番に見学できる仕掛けとなっている。このステージの階段を下りると水場があった。ここからは、整備された木道を辿って、夫婦杉、大王杉、ウイルソン株（写真－11）、翁杉と著名なヤクスギを見学しながら下山できる。数千年を生き延びている生物の存在には神秘的な靈気を感じてしまう。



写真－10 縄文杉



写真－11 ウイルソン株



写真－13 「もののけ姫の森」



写真－12 トロッコ軌道

翁杉から少し下ると、トロッコ軌道を敷設した大株歩道入口に降り立った（写真－12）。ここからはレールの間の木道を「楠川分れ」まで行き、再び山道に入り辻峠を經由して白谷雲水峡に着いた。樹木や岩び

っしりコケが張り付いており、幻想的な景観となっている（写真－13）。案内板には「もののけ姫の森」とあった。ここは子供連れの家族で行ける観光地となっている。

バス停には13時50分に着いたが、幸運にもすぐに宮之浦行きバスに乗ることが出来た。

11月2日（日）曇り

民宿8:00—8:30屋久島空港9:35—10:05鹿児島空港10:45—12:25羽田空港

9時35分の始発便で屋久島を発つと、鹿児島空港を経由して3時間で羽田に帰ることが出来た。始発の飛行機から屋久島を見ると、山岳地帯はすでに雲に包まれていた。羽田に降り立ってみると、数時間前に幻想的な雰囲気の中の中にいたことが不思議な気がした。



写真-14 鹿児島空港行きの一発機

以上（記 青景）